

もくじ

もくじ	1
はじめに	4

1章 バッテリ駆動 7

1 バッテリについて	8
1 バッテリ充電量を確認する	10
2 バッテリを充電する	15
3 バッテリパックを交換する	18
2 省電力の設定をする	20
3 パソコンの使用を中断する	27
4 簡単に電源を切る／ パソコンの使用を中断するとき	31

2章 機能・設定の変更 33

1 キーボードのいろいろな使いかた	34
2 ディスプレイの設定	39
1 表示について	39
2 デスクトップの表示を変える	40
3 ポインタの設定	46
4 内蔵モデムについて	51
5 Windows のユーザ設定	55
1 Windows ログオンパスワード	55
2 ユーザーアカウントの設定を変える	63
3 複数のユーザで使用する	67
4 ユーザーアカウントを切り替える	68

3章 周辺機器の接続 71

1	周辺機器について	72
1	本製品に接続できる周辺機器	73
2	周辺機器を使う前に	75
3	取り付け／取りはずしのご注意	76
2	フロッピーディスクドライブを接続する	77
1	フロッピーディスクドライブ	77
2	フロッピーディスク	79
3	フロッピーディスクを使う前に	80
3	PCカードを接続する	85
4	USB 対応機器を接続する	89
5	テレビを接続する	91
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ...	96
7	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	99
8	CRT ディスプレイを接続する	102
9	その他の機器を接続する	107
1	マイクロホン	107
2	ヘッドホン	108
3	オーディオ機器	109
10	LAN へ接続する	111
11	メモリを増設する	115

4章 システム環境の変更 121

- 1 システム環境の変更とは 122
- 2 東芝HW セットアップを使う 123

付録 129







- 1 本製品の仕様 130
- 2 各インタフェースの仕様 136
- 3 技術基準適合について 140
- さくいん 157

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心して
お使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。

本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷 <small>じゅうしょう</small> を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害 <small>しょうがい</small> *1を負ったり、物的損害*2の発生が想定される内容を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 用語	覚えておくと役に立つ用語を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合… 「 」 他のマニュアルへの参照の場合… 『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合… 〈 〉

*1 傷害しょうがいとは、治療ちりょうに入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

*2 物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

- システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。
本製品のシステムは Windows XP です。
- アプリケーションまたはアプリケーションソフト
..... アプリケーションソフトウェアを示します。
- Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition
operating system 日本語版を示します。
- MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。

本製品の電源を入れた状態で、次の操作を行うとご覧になれます。

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [リリース情報] をクリックする
- ③ 左画面の [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみご利用いただけます。
- ・ ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章 バッテリー駆動

1	バッテリーについて	8
2	省電力の設定をする	20
3	パソコンの使用を中断する	27
4	簡単に電源を切る ／パソコンの使用を中断するとき	31

1


バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品に添付の『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

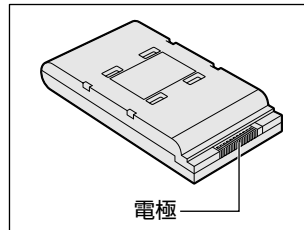
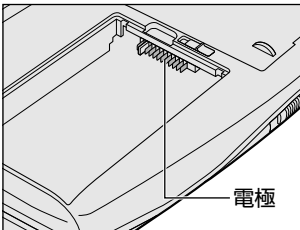
 『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

警告

- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS015）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

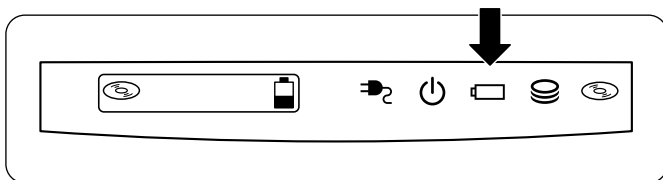


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LED で確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery LED が緑色に点灯すれば充電完了です。

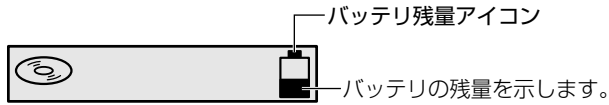


バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・バッテリーが接続されていない・ACアダプタが接続されていない・バッテリー異常


モードパネルで確認する


モードパネルに表示されたバッテリー残量アイコンで、バッテリーの状態を確認できます。




バッテリー充電量の状態にあわせて、バッテリー残量アイコンは5段階に表示が変わります。

バッテリー残量アイコンが  のとき、フル充電状態です。

バッテリー残量アイコンが  のときは、すぐに充電が必要な状態です。

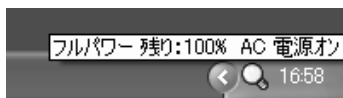
-  ● バッテリー残量アイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残り残量と異なることがあります。

通知領域の [省電力] アイコンで確認する

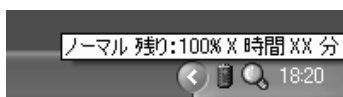
通知領域の [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。


このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。


- AC アダプタを接続している場合



- バッテリー駆動の場合





- メモ ● 通知領域に表示される [省電力] アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 東芝省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定内容によっては、通知領域に [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

 省電力設定について ⇨ 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリー充電量が減少したとき



電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリー残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

 [東芝省電力ユーティリティについて](#) ➔ 「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

-  ● 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、Battery  LED でもアラームでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。


時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続して電源を入れているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
電源ON (Power  LEDが点灯)	10時間以上
電源OFF (Power  LEDが消灯)	ほとんど充電しない



-  ● 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。


充電方法


1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず常時充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ON	約8時間以上
電源OFF	約2～3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ノーマル	約2.0時間

(注) 当社使用のプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。放置環境などによって異なりますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約4日間




- スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。


バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。


- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 「本章 3 パソコンの使用を中断する」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

 ディ스플레이を閉じる
⇨ 「本章 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリーパックを交換する

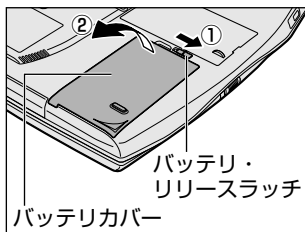


- バッテリーパックの取り付け/取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

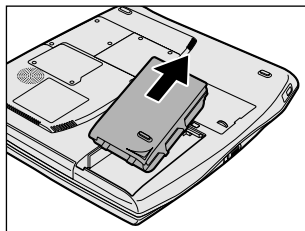
取り付け/取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

- 6 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーカバーを引き上げる②

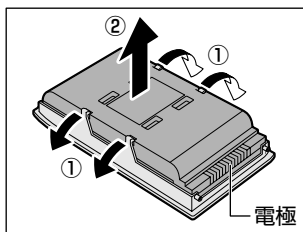


- 7 バッテリーパックごと、バッテリーカバーを取り出す

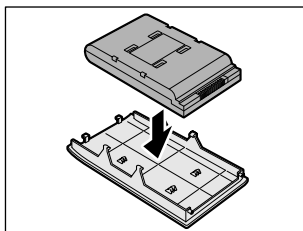


8 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

バッテリーカバーのツメを左右に広げ
①、バッテリーパックを取りはずします②。

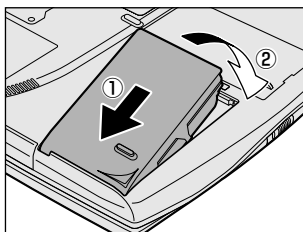


9 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



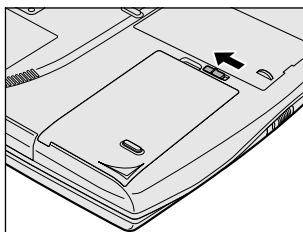
10 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②

新しい、あるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。



11 バッテリーパックを固定する

バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。





2

省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [ 東芝省電力] をクリックする

[電源設定] タブ



使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

■ [電源に接続] [バッテリーを使用中]

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

● フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。

● ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

● ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。

● ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

● DVD 再生

バッテリー駆動で DVD の再生を行う場合に、性能を優先して省電力制御を行います。

DVD の再生は、通常は AC アダプタを接続して行うことをおすすめします。

● プレゼンテーション


プレゼンテーションを行う場合に、性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。

● スーパーロングライフ

消費電力を最優先にして省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】


- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、ご購入時に用意されている7つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【休止状態】 タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



省電力モードの詳細設定

- 1 【電源設定】 タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】 ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



■ 【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■ 【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■ 【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



- ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。


- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- バッテリーが消耗したとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には動きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。



- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk  LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

- スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める
ここをチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイまたは休止状態から復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

■ 【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。



[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

■ [デバイスの設定] タブ

デバイスを使用するかしないかを設定します。デバイスごとに設定ができます。


また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する ⇨ 「2章 5-3 複数のユーザで使用する」

3

パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することをおすすめします。

スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。



- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

⚠ 警告

- ・パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

⚠ 注意

- ・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②




- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

 ● (Fn) + (F3) キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

1 休止状態を有効に設定する


- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift)キーを押しながら [休止状態] をクリックする (Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



 ● (Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

[スタート] メニューから以外にも、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。



- 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。



詳細について

- 「本章 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

4

簡単に電源を切る ／パソコンの使用を中断するとき

〔スタート〕メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ④ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする



- 手順 1 の④で [何もしない] を選択すると、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で「[入力を求める]」を選択したときは、「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じるとパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。


休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ④ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 ● 手順1の④で「[何もしない]」を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で作業を中断します。

次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

2章 機能・設定の変更

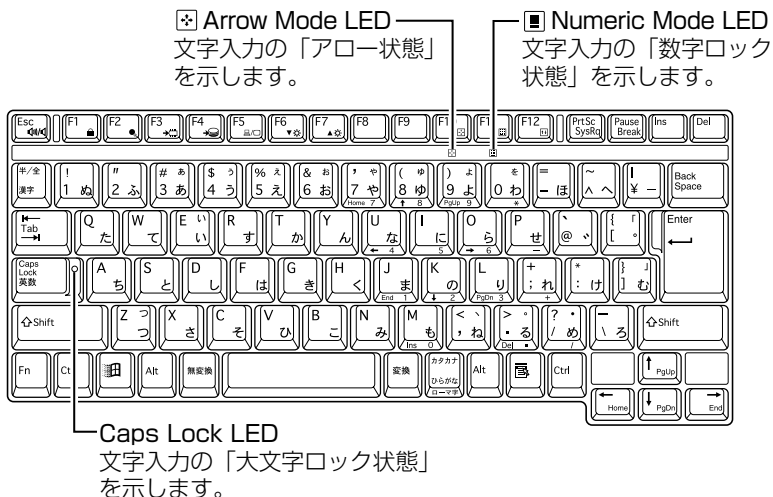
- 1 キーボードのいろいろな使いかた 34
- 2 ディスプレイの設定 39
- 3 ポインタの設定 46
- 4 内蔵モデムについて 51
- 5 Windows のユーザ設定 55

1

キーボードのいろいろな使いかた

キーシフトインジケータの切り替え

キーボードのキーは、状態によって入力できる文字が異なります。
キーシフトインジケータは、入力状態を示します。



■ Caps Lock LED

文字キーを押すと、英字の大文字が入力できる「大文字ロック状態」を示します。

(Shift) + (Caps Lock 英数) キーを押すと、Caps Lock LED が点灯し、大文字ロック状態になります。



- すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合、Arrow Mode ☒ LED と Numeric Mode ☒ LED は消灯の状態にしてください。

MS-IME ツールバーを表示している場合は、[CAPS] の部分の色が変わります。



大文字ロック状態を解除するには、もう 1 度 (Shift) + (Caps Lock 英数) キーを押します。解除されると、Caps Lock LED は消灯します。

■ Arrow Mode LED

オーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使用できる「アロー状態」を示します。

(Fn) + (F10) キーを押すと、Arrow Mode (Fn) LED が点灯し、「アロー状態」になります。アロー状態でオーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使えます。

アロー状態を解除するときは、もう 1 度 (Fn) + (F10) キーを押します。解除されると Arrow Mode LED は消灯します。

 オーバレイキーについて

➡ 『基本をマスター 4 章 1 キーボードについて』

■ Numeric Mode LED

オーバーレイキーを押すと、数字が入力できる「数字ロック状態」を示します。



(Fn) + (F11) キーを押すと、Numeric Mode (Fn) LED が点灯し、数字ロック状態になります。

数字ロック状態でオーバーレイキーを押すと、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

 オーバレイキーについて


➡ 『基本をマスター 4 章 1 キーボードについて』





















(Fn)キーを使った特殊機能キー

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度 (Fn) + (Esc) キーを押します。
(Fn) + (F1) 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、 (Shift) キーや (Ctrl) キーを押す、またはタッチパッドを操作してください。 スクリーンセーブパスワードを設定している場合は、表示された画面でWindowsのログオンパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。  参照 (Fn) + (F1) スクリーンセーブパスワード ⇒ 「本章 5-1 Windows ログオンパスワード」
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn) キーを押したまま、 (F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn) + (F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	(Fn) + (F3) キーを押し、表示される画面で[はい] ボタンをクリックすると、スタンバイ機能が実行されます。
(Fn) + (F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn) + (F4) キーを押し、表示される画面で[はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。
(Fn) + (F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を選択できます。  参照 (Fn) + (F5) 詳細について ⇒ 「3章 5 テレビを接続する」 ⇒ 「3章 8 CRT ディスプレイを接続する」

<p>(Fn) + (F6) <ディスプレイを輝度を下げる></p>	<p>(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ下がります。 表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。</p>
<p>(Fn) + (F7) <ディスプレイを輝度を上げる></p>	<p>(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ上がります。 表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。</p>
<p>(Fn) + (F10) <オーバーレイ機能></p>	<p>キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。 アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F11) <オーバーレイ機能></p>	<p>キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。</p>
<p>(Fn) + (F12) <スクロールロック状態></p>	<p>一部のアプリケーションで(↑) (↓) (←) (→)キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F12)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (↑) <PgUp(ページアップ)></p>	<p>一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。</p>
<p>(Fn) + (↓) <PgDn(ページダウン)></p>	<p>一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、前のページに移動できます。</p>
<p>(Fn) + (←) <Home(ホーム)></p>	<p>一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(←)を押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。</p>
<p>(Fn) + (→) <End(エンド)></p>	<p>一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(→)を押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。</p>







キーを使ったショートカットキー

 (ウィン) キーと他のキーとの組み合わせを、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
 +  (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 +  (M)	すべてをアイコン化する
 (Shift) +  +  (M)	すべてのアイコン化を元に戻す
 +  (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
 +  (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 +  (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
 (Ctrl) +  +  (F)	他のコンピュータを検索する
 +  (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 +  (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	 (Ctrl) +  (Alt) +  (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	 (PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	 (Alt) +  (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

2

ディスプレイの設定

2章

機能・設定の変更


1 表示について


■ 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 x 1536ドット	1,677万色
1920 x 1440ドット	1,677万色
1600 x 1200ドット	1,677万色
1280 x 1024ドット	1,677万色
1024 x 768ドット	1,677万色
800 x 600ドット	1,677万色
640 x 480ドット	1,677万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。


 ● 1,677万色はディザリング表示です。

 ● **ディザリング** ● 1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

2 デスクトップの表示を変える

デスクトップの表示は、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

■ [デスクトップの表示とテーマ] 画面

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で ▼ ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する

画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する

パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は [草原] を選択する場合の表示例です。




- 指定できる画像ファイル
bmp、gif、jpeg、html ファイルなど可以使用です。
- 画像の位置を指定する
画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。
[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

3 [OK] ボタンをクリックする

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行なってください。
スクリーンセーバにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

 パスワードについて ⇨ 「本章 5-1 Windows ログオンパスワード」

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きくなり、または小さく表示されます。


1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する





3 [OK] ボタンをクリックする

-  ● それぞれのパソコンには、ディスプレイの大きさに応じて、適した表示サイズがあります。かえって見づらくなる場合は、元の設定に戻してください。

ウィンドウの色を変える



ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [デザイン] タブの [配色] で、  ボタンをクリックし、配色を選択する
プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

■ 状態ごとに設定する

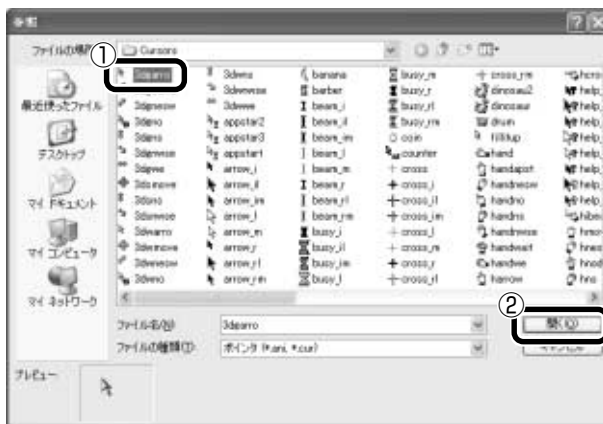
- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ポインタ] タブの [カスタマイズ] で、変更するポインタの状態を選択し①、[参照] ボタンをクリックする②



[参照] 画面が表示されます。

4 変更したいポイントのファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②

変更したポイントのプレビューが表示されます。
画面は、[3dgarro] を選択する場合の表示例です。



5 [OK] ボタンをクリックする

【名前を付けて保存する】

ポイントを状態ごとに設定した組み合わせを、名前を付けて保存することができます。

① [デザイン] の [名前を付けて保存] ボタンをクリックする

[デザインの保存] 画面が表示されます。

② 保存する名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする

保存した名前が、[配色] の一覧に追加されます。

【設定を元に戻す】

次の手順で、ご購入時の状態の組み合わせに戻すことができます。

① [デザイン] で [標準の組み合わせ (システム設定)] を選択する

② [OK] ボタンをクリックする

また、次の手順で、状態ごとに設定したポイントをご購入時の状態に戻すことができます。



① [カスタマイズ] で、元に戻したいポイントの状態を選択する

② [既定の設定] ボタンをクリックする

③ [OK] ボタンをクリックする

速度を変える

ポインタの速度や加速度を変更できます。



- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ポインタオプション] タブの [速度] で、ポインタの速度を変更する



- 4 [OK] ボタンをクリックする

軌跡を表示する

ポインタを動かしたときに、軌跡を表示することができます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ポインタオプション] タブの [表示] で [ポインタの軌跡を表示する] をチェックする ()
スライダーバーを動かして、軌跡の長さを調節できます。



- 4 [OK] ボタンをクリックする

4

内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

■ 使用上のお願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。



- **分岐アダプタ** ● 1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
- **回線切換器** ● 1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。



- PCカード接続のハードディスクドライブやマルチドライブなどの動作中に、通信を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・通信回線の速度が遅くなる
 - ・通信回線が切断される
 - ・ダイヤルに失敗する

海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年10月現在)


海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。



- 地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行なってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

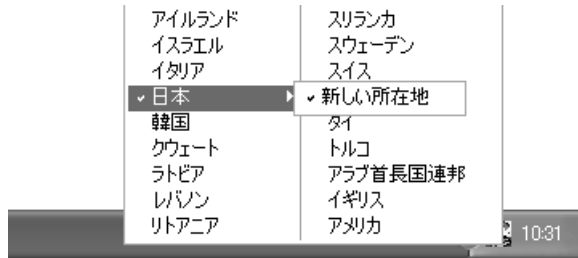
1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報にチェックマークがつきます。




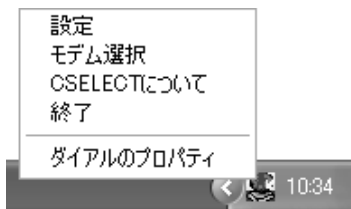
3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。表示される [電話とモデムのオプション] 画面で新しく所在地情報を作成します。この場合、新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

■ その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

5

Windows のユーザ設定


2章

機能・設定の変更

1 Windows ログオンパスワード

Windows にログオンするときのパスワードを設定できます。また、スクリーンセーバにパスワードによる保護を設定すると、インスタントセキュリティ状態やスクリーンセーバの解除に Windows ログオンパスワードの入力が必要になります。

Windows ログオンパスワードの設定

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 パスワードを設定するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [パスワードを作成する] をクリックする
- 4 [新しいパスワードの入力] にパスワードを入力する
パスワードは大文字、小文字を区別します。また、入力した文字は「●●●●」で表示されます。



5 (Tab)キーを押す

カーソルが【新しいパスワードの確認入力】に移動します。

6 もう1度パスワードを入力する

入力したパスワードを忘れたときのために、パスワードのヒントを入力する場合は、(Tab)キーを2回押し、ヒントになる語句を入力してください。


7 【パスワードの作成】ボタンをクリックする

パスワードが設定されました。

Windows ログオンパスワードの変更

2章

機能・設定の変更

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 パスワードを変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [パスワードを変更する] をクリックする
- 4 [現在のパスワードの入力] に現在のパスワードを入力する
パスワードは大文字、小文字を区別します。また、入力した文字は「●●●●●」で表示されます。



- 5 **(Tab)** キーを押す
カーソルが [新しいパスワードの入力] に移動します。
- 6 変更したいパスワードを入力する
- 7 **(Tab)** キーを押す
カーソルが [新しいパスワードの確認入力] に移動します。

8 もう1度変更したいパスワードを入力する

入力したパスワードを忘れたときのために、パスワードのヒントを入力する場合は、[Tab] キーを2回押し、ヒントになる語句を入力してください。

9 [パスワードの変更] ボタンをクリックする



The image shows a Windows dialog box titled "パスワードを変更します" (Change Password). The dialog has a sidebar on the left with a "ヘルプ" (Help) section containing links for "セキュリティの基礎知識をダウンロードする" (Download basic security knowledge), "現在のパスワードのヒントの作成" (Create password hints), and "パスワードの保存" (Save password). The main area contains the following text and fields:

- 現在のパスワードの入力: [password field]
- 新しいパスワードの入力: [password field]
- 新しいパスワードの確認入力: [password field]

Below the fields, there is explanatory text: "パスワードに大文字が含まれる場合は、必ず7文字以上の長さのパスワードを入力する必要があります。" (If the password contains uppercase letters, you must enter a password that is at least 7 characters long.) and "パスワードのヒントとして語句を選択してください。" (Select words to use as password hints.)


At the bottom right, there are two buttons: "パスワードの変更" (Change Password) and "キャンセル" (Cancel). The "パスワードの変更" button is highlighted with a red circle.

パスワードが設定されました。

Windows ログオンパスワードの削除

2章

機能・設定の変更

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 パスワードを削除するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [パスワードを削除する] をクリックする
- 4 表示された画面でパスワードを入力する
パスワードは大文字、小文字を区別します。また、入力した文字は「●●●●●」で表示されます。
- 5 [パスワードの削除] ボタンをクリックする



パスワードが削除されました。

Windows ログオンパスワードの入力




パソコンの電源を入れると、パスワード入力画面が表示されます。



1 パスワードを入力し、 ボタンをクリックする

パスワードは大文字、小文字を区別します。また、入力した文字は「●●●●」で表示されます。



- パスワードを登録したときに、パスワードのヒントを入力した場合は、 ボタンの隣に  ボタンが表示されます。
 ボタンをクリックすると、パスワードのヒントが表示されます。


Windows の起動画面が表示されます。

スクリーンセーバパスワード

スクリーンセーバのパスワード設定をすると、スクリーンセーバを解除するときにパスワードの入力画面が表示されます。解除するにはWindowsのログオンパスワードを入力してください。

■ スクリーンセーバのパスワード設定

スクリーンセーバのパスワード設定は、[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで設定します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [スクリーンセーバーを選択する] をクリックする
- 3 [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護] をチェックする ()




- 4 [OK] ボタンをクリックする
- 5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

■ スクリーンセーバパスワードの入力

スクリーンセーバの動作中に(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行うと、[コンピュータのロックの解除] 画面が表示されます。

1 Windows のログオンパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは大文字、小文字を区別します。パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

-  ● Windows のログオンパスワードを設定せずにスクリーンセーバのパスワード設定をした場合も [コンピュータのロックの解除] 画面が表示されます。何も入力しないで [OK] ボタンをクリックしてください。

2 ユーザーアカウントの設定を変える


Windows のセットアップ時に入力したユーザ名でユーザーアカウントが作成されます。

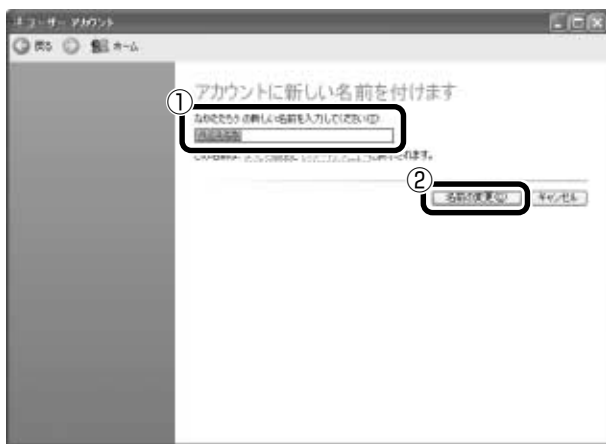
ユーザーアカウントの設定は変更することができます。

詳しくは『ヘルプとサポート』をご覧ください。

名前を変更する

ユーザーアカウントの名前を変更できます。


- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 名前を変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [名前を変更する] をクリックする
[アカウントに新しい名前を付けます] 画面が表示されます。
- 4 [XXXXXX（名前）の新しい名前を入力してください] に名前を入力し①、[名前の変更] ボタンをクリックする②



名前が変更されます。

画像を変更する

ログイン画面やスタートメニュー画面上部にユーザーアカウント名とともに表示される画像を変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 画像を変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [画像を変更する] をクリックする
[XX（ユーザ名）のアカウントの新しい画像を選びます] 画面が表示されます。
- 4 新たに設定したい画像を選択し①、[画像の変更] ボタンをクリックする②




画像が変更されます。

アカウントの種類を変更する

ユーザーアカウントには、「コンピュータの管理者アカウント」または「制限付きアカウント」の2種類があります。

「制限付きアカウント」は、複数のユーザーアカウントを設定している場合のみ設定できます。「制限付きアカウント」は、使用できるアプリケーションやパソコン環境が制限されます。

ユーザーアカウントを1人だけ設定している場合は、「コンピュータの管理者アカウント」に設定され、「制限付きアカウント」には設定できません。


- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
- 2 アカウントの種類を変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
- 3 [アカウントの種類を変更する] をクリックする
[新しいアカウントの種類を選びます] 画面が表示されます。
- 4 [コンピュータの管理者] または [制限] のどちらかを選択し、[アカウントの種類の変更] ボタンをクリックする
アカウントの種類が変更されます。

「.NET Passport」を追加する

ドットネットパスポート

「.NET Passport」でユーザ名やパスワード等を設定しておく、それ以後個人情報を入力しないで各種サービスや Web サイトにサインインできます。

個人情報は Windows 上に保存され、高度なセキュリティによって守られます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
 - 2 名前を変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
 - 3 [.NET Passport を使用するためにアカウントをセットアップする] をクリックする
- [.NET Passport ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。




3 複数のユーザで使用する

一台のパソコンを複数のユーザで使用するときに、次の設定についてそれぞれのユーザのパソコン環境を作ることができます。

- デスクトップ環境
- Internet Explorerの「お気に入り」フォルダと「履歴」フォルダ
- [マイドキュメント] フォルダ
- [スタートメニュー] などのWindowsの設定

ユーザーアカウントの追加方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
[ユーザーアカウント] 画面が表示されます。
- 2 [作業を選びます] の「新しいアカウントを作成する」をクリックする
- 3 [新しいアカウントの名前の入力] に、追加したいユーザ名を入力する
- 4 [次へ] ボタンをクリックする
- 5 [アカウントの種類を選びます] で [コンピュータの管理者] または [制限] のいずれかを選択する
- 6 [アカウントの作成] ボタンをクリックする
[ユーザーアカウント] 画面に、ユーザーアカウントが追加されたことを確認してください。



ユーザーアカウントの詳しい設定について

⇒ 「本節 2 ユーザーアカウントの設定を変える」

4 ユーザーアカウントを切り替える

複数のユーザで使用する設定をしている場合、Windowsの起動時に、[開始するにはユーザー名をクリックしてください] 画面が表示されます。

使用したいユーザのアイコンをクリックすると、選択したユーザのアカウントでログオンできます。

パソコンを使用中に、ユーザーアカウントを切り替えたい場合、次の方法があります。

- 方法1- プログラムを終了して切り替える方法
- 方法2- プログラムを終了せずに切り替える方法

方法1- プログラムを終了して切り替える方法

1 [スタート] → [ログオフ] をクリックする

[Windowsのログオフ] 画面が表示されます。



2 [ログオフ] ボタンをクリックする

使用中のプログラムを終了してから、Windowsがログオフし、[開始するにはユーザー名をクリックしてください] 画面が表示されます。

3 ログオンしたいユーザー名をクリックする


Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、➡ ボタンをクリックしてください。選択したユーザーアカウントでログオンします。

方法2- プログラムを終了せずに切り替える方法

現在のユーザが使用しているプログラムを終了せずに、ユーザーアカウントを切り替えることができます。他のユーザが使い終わった後にユーザーアカウントを元に戻すと、元のユーザがログオフする前の状態が再現されます。

あらかじめ、次の設定を行なってください。


■ 設定方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ユーザーアカウント] をクリックする
[ユーザーアカウント] 画面が表示されます。
- 2 [作業を選びます] の [ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する] をクリックする
- 3 [ログオンとログオフのオプションを選択します] の [ユーザーの簡易切り替えを使用する] をチェックする ()
- 4 [オプションの適用] ボタンをクリックする

■ 切り替え方法

- 1 [スタート] → [ログオフ] をクリックする
[Windows のログオフ] 画面が表示されます。



- 2 [ユーザーの切り替え] をクリックする
ログオフし、[開始するにはユーザー名をクリックしてください]
画面が表示されます。
- 3 ログオンしたいユーザー名をクリックする
Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パス
ワードを入力し、 ボタンをクリックしてください。
選択したユーザーアカウントでログオンします。
そのユーザーアカウントで前回ログオフしたときの状態が再現さ
れます。

3章 周辺機器の接続

1	周辺機器について	72
2	フロッピーディスクドライブを接続する	77
3	PC カードを接続する	85
4	USB 対応機器を接続する	89
5	テレビを接続する	91
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ...	96
7	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	99
8	CRT ディスプレイを接続する	102
9	その他の機器を接続する	107
10	LAN へ接続する	111
11	メモリを増設する	115

1

周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

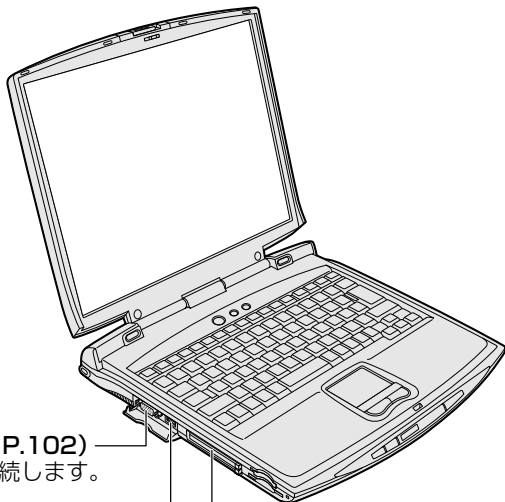
- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス
- 増設メモリ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- モデム（本製品では内蔵）
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- デジタルカメラ

1 本製品に接続できる周辺機器

本製品には次のような周辺機器を接続できます。
周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。



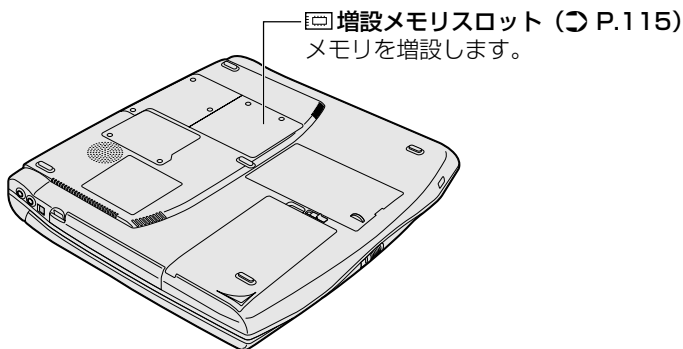
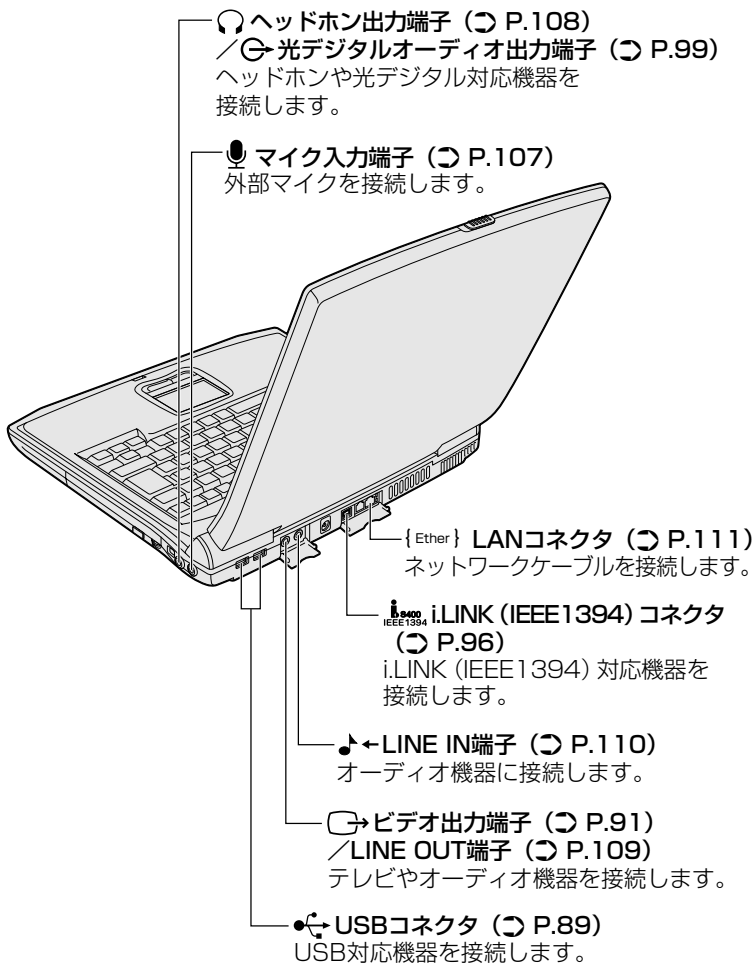
- **インターフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。



□ **RGBコネクタ (☞ P.102)**
CRTディスプレイを接続します。

•↔ **USBコネクタ (☞ P.89)**
USB対応機器を接続します。

①② **PCカードスロット (☞ P.85)**
PCカードを接続します。



2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windowsがドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

【新しいハードウェアの検出ウィザード】画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



■ プラグアンドプレイに対応していない場合

【ハードウェアの追加ウィザード】を起動するか、機器に付属の説明書をご覧ください。ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。

【ハードウェアの追加ウィザード】の起動方法

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2

フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

3章

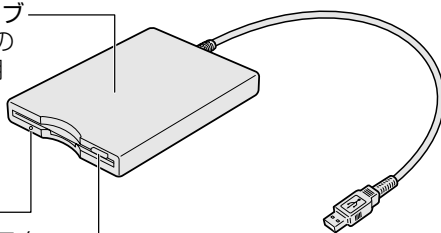
周辺機器の接続

1 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしの方法については「本章 4 USB 対応機器を接続する」をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

フロッピーディスクドライブのご使用について

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。



- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

⚠ 注意

- ・ パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、USB ケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

常にフロッピーディスクから起動する場合

次の設定を行なってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- 3 [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

一時的にフロッピーディスクから起動する場合

- 1 **F12**キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- 2 **←**または**→**キーで、中央のフロッピーディスクのアイコンを選択し、**Enter**キーを押す


2 フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類とその容量


フロッピーディスクに保存できる容量は、次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

Windows用にフォーマットされていないフロッピーディスクを使用する場合は、フォーマットが必要です。

 フォーマットについて [☞「本節 3-フォーマット」](#)

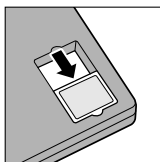
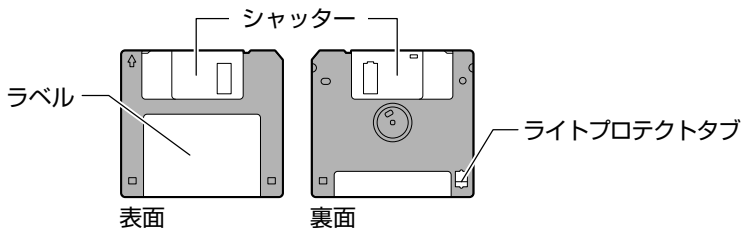
フロッピーディスクの内容を見る

- 1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3 フロッピーディスクを使う前に

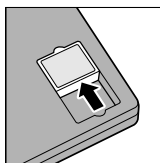
ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

フォーマット

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行ってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できません。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われませんが、フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

MS-DOS の起動ディスクを作成します。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

■ フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、『ヘルプとサポート』をご覧ください。




- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。



- 他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- フォーマットできるフロッピーディスクは 2HD タイプのみ、容量は 1.44MB のみになります。

1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

- 4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



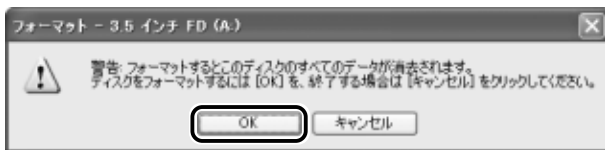
【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

- 5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする
クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。



メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする




フォーマットが開始されます。フォーマット中は次の画面が表示されます。



バーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする



これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。
フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ (A:)] 画面で [閉じる] ボタン () をクリックしてください。

3

PC カードを接続する

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード
- SCSI カード
- Bluetooth PC カード
- 無線 LAN カード など

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いのPCカードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。



- PCカード接続のハードディスクドライブやマルチドライブなどの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
 - ・サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード (CardBus 対応カードも含む) を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上側)	TYPE II
0 (下側)	TYPE II/III

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

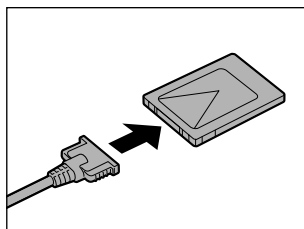
- ・ホットインサクションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



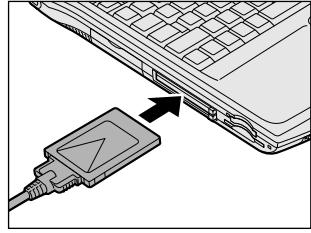
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

取り付け

- 1 PC カードにケーブルを付ける
SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する





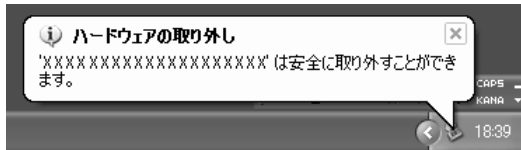
カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。カードの接続および環境の設定方法については、『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。

取りはずし

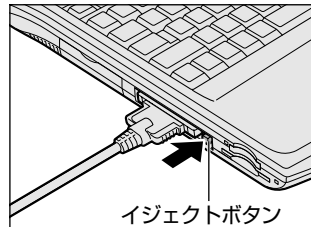
1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

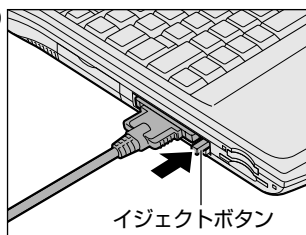


2 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

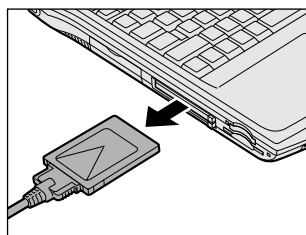
イジェクトボタンが出てきます。



- 3 もう1度取りはずしたいカードの
イジェクトボタンを押す
「カチッ」と音がするまで押し
てください。
カードが少し出てきます。



- 4 カードをしっかりとつかみ、引き
抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。

- 5 イジェクトボタンを押す
イジェクトボタンを収納します。

4

USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

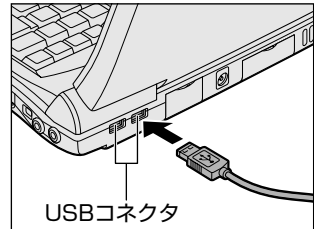
- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

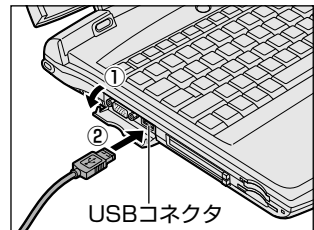
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

【背面】



【左側面】

コネクタカバーを開き①、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込んでください②。



2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』をご覧ください。



- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5

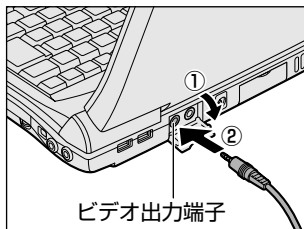
テレビを接続する

本製品には、テレビと接続できるビデオ出力端子が用意されています。同梱のビデオケーブルをお使いください。本製品のビデオ出力端子は、LINE OUT 端子を兼ねています。

 LINE OUT 端子への接続について ⇨ 「本章 9-3 オーディオ機器」

取り付け

- 1 コネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む②





- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む

ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行なってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

■ 方法 1—画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [TwinView] タブで次のいずれかに設定する



- 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [TwinView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
- ③ [デバイスの選択] タブで [デジタル フラット パネル] を選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

- 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [TwinView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [TwinView ディスプレイ 2 : アナログ モニタ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
- ④ [デバイスの選択] タブで [TV] を選択する
- ⑤ [形式] でテレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

- テレビだけに表示

- ① [TwinView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
- ③ [デバイスの選択] タブで [TV] を選択する
- ④ [形式] でテレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

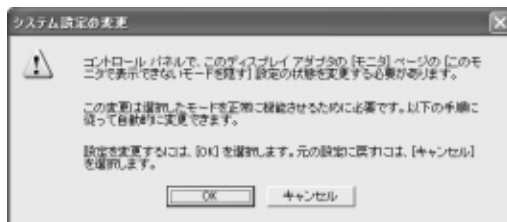


- MS-DOS プロンプトを表示している場合、パソコン本体の液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

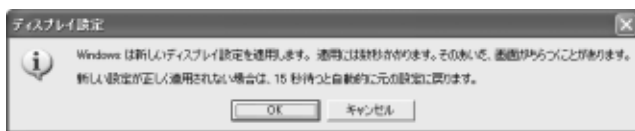
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

- [システム設定の変更] 画面



- [ディスプレイ設定] 画面



- [ディスプレイ設定の確認] 画面



■ 方法2—(Fn)+(F5)キーを使う

(Fn)キーを押したまま、(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（パソコン本体のディスプレイ）以外に設定されている場合、(Fn)+(F5)キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に(Fn)+(F5)キーを押したときのみ有効です。



- LCD パソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD／CRT* ... パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT* CRTディスプレイだけに表示
CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TV パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

* CRTディスプレイ接続時について ☞ 「本章 8 CRTディスプレイを接続する」

取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

6

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプワイヤインターフェース

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-RW ドライブ など

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』をご覧ください。

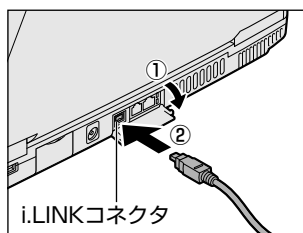
i.LINK 対応機器のご使用について

i.LINK 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ (データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ) のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

取り付け

- 1 コネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む②
コネクタの向きを確認して差し込んでください。





- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

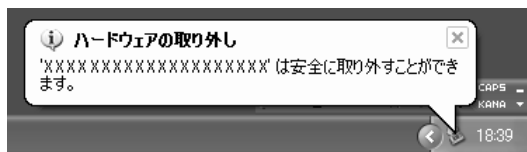


- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なってありません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。


取りはずし

1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする




2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

-  ● デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート』をご覧ください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

-  ● i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。


7

光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する

光デジタルオーディオ出力端子に接続します。
光デジタルオーディオ出力端子に接続できる機器（光デジタル対応機器とよびます）には、次のようなものがあげられます。

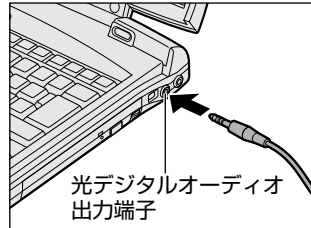
- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

 ヘッドホン出力端子への接続について ⇨ 「本章 9-2 ヘッドホン」

取り付け

- 1 デジタルオーディオケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む
プラグの形状を確認して差し込んでください。



- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

■ 使用上のお願い

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・ お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・ お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- Windowsを起動せずにオーディオ／アプリケーションボタンで音楽CDを操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から出力されません。

取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンボなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』をご覧ください。

3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- ・「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤ、または「LIVE MEDIA PLAYER」などのプレーヤで Wave ファイル、Midi ファイル、ムービーファイル（AVI / MPG）、音楽 CDなどを再生する場合
- ・「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。



- シンクロ録音機能をお使いになる場合は、コントロールパネルの [ヤマハ AC-XG 設定] をダブルクリックし、[出力] タブの [デジタル出力] で [ON (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。



- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」の DVD を再生した場合、「Audio Manager」など、著作権保護機能（SCMS に準拠）を持つプレーヤで CD や音楽ファイルを再生した場合、録音はできません。



- **シンクロ録音機能** ● 光デジタル対応機器が、パソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能。
- **SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム)** ● デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術。例えば、音楽 CD から MD に録音することはできるが録音した MD から、さらに他の MD に録音することはできない。

8

CRT ディスプレイを接続する

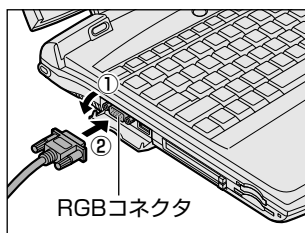
RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続します。



- パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続

- 1 コネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②
取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にそのCRT ディスプレイを認識します。

表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する





● 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。

- ・ データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
- ・ 通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。



● 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。
このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります
すが、故障ではありません。

■ 方法 1 – 画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [TwinView] タブで次のいずれかに設定する



- 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - ① [TwinView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
 - ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
 - ③ [デバイスの選択] タブで [デジタル フラット パネル] を選択する
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 内部液晶ディスプレイとCRT ディスプレイの同時表示
 - ① [TwinView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
 - ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
 - ③ [デバイスの選択] タブで [アナログモニタ] を選択する
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- CRT ディスプレイだけに表示
 - ① [TwinView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
 - ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] をクリックする
 - ③ [デバイスの選択] タブで [アナログモニタ] を選択する
 - ④ [OK] ボタンをクリックする

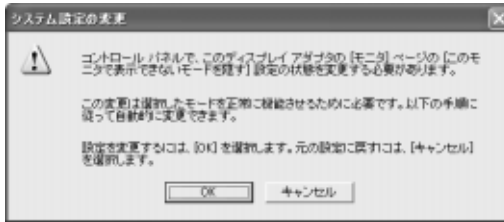
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

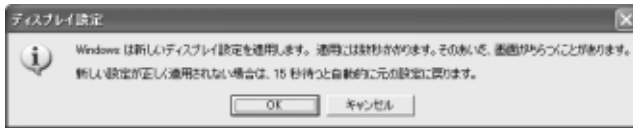
[メッセージについて]

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

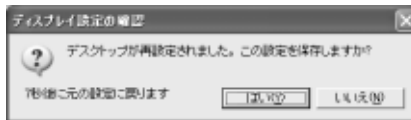
- [システム設定の変更] 画面



- [ディスプレイ設定] 画面



- [ディスプレイ設定の確認] 画面



■ 方法2—(Fn)+(F5)キーを使う

(Fn)キーを押したまま、(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（パソコン本体のディスプレイ）以外に設定されている場合、(Fn)+(F5)キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に(Fn)+(F5)キーを押したときのみ有効です。



- LCD パソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD／CRT パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TV* パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
- TV* テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

*テレビ接続時について ⇨ 「本章 5 テレビを接続する」

表示について



- CRTディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRTディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



ビデオモードについて ⇨ 「付録 1- サポートしているビデオモード」

9

その他の機器を接続する

1 マイクロホン

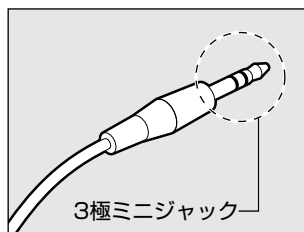
マイク入力端子に接続します。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 サウンド機能について ⇨ 『基本をマスター 7章 6 サウンド機能』

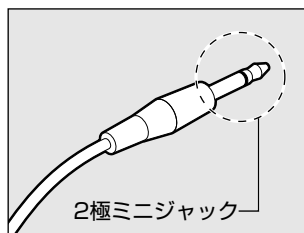
使用できるマイクロホン

本製品でご使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



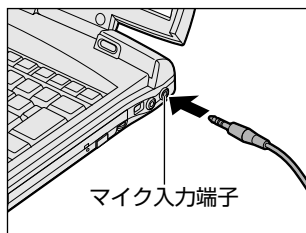
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。



接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。

【ボリュームコントロールの起動方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 サウンド機能について ⇨ 『基本をマスター 7章 6 サウンド機能』

⚠ 注意


- ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

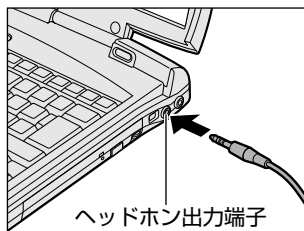
本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照  光デジタルオーディオ出力端子への接続について
☞「本章 7 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



3 オーディオ機器

本製品には、オーディオ機器を接続する LINE OUT 端子と LINE IN 端子が用意されています。

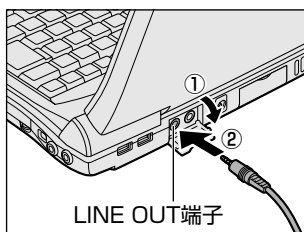
本製品の LINE OUT 端子は、ビデオ出力端子を兼ねています。

参照  ビデオ出力端子への接続について ☞「本章 5 テレビを接続する」

LINE OUT 端子への接続

同梱のビデオケーブルをオーディオケーブルとしてお使いください。同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使った場合、正常に信号が出力されません。

- 1 コネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む②
- 2 コネクタの形状を確認して差し込んでください。



2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）をオーディオ機器の LINE IN 端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

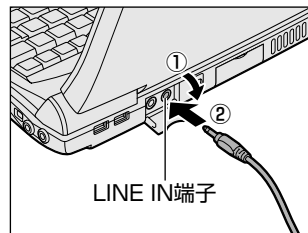
ビデオケーブルの映像端子（黄）は使用しません。

LINE IN 端子への接続

市販のオーディオケーブルをお使いください。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプをお使いください。

- 1 コネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体の LINE IN 端子に差し込む②
コネクタの形状を確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE OUT 端子に差し込む

10

LANへ接続する

3章

周辺機器の接続

本製品には、ブロードバンド対応のLANコネクタが内蔵されています。LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

また、本製品のLANコネクタは、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

ここでは、LANケーブルの接続、LANコネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

LANケーブルの接続

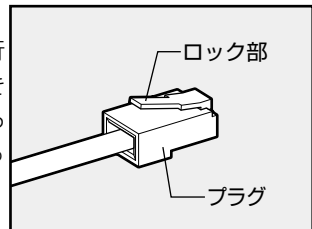
LANインタフェースを100BASE-TX規格(100Mbps)でご使用になるときは、必ずカテゴリ5(CAT5)のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。10BASE-T規格(10Mbps)でご使用になるときは、カテゴリ3または5のケーブルが使用できます。



- **カテゴリ** ● ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ1～5まであり、数字が高いほど品質が高い。10BASE-Tではカテゴリ3以上、100BASE-TXではカテゴリ5のケーブルが使われる。



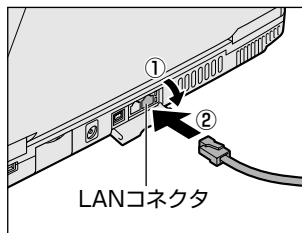
- LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 コネクタカバーを開き①、LAN ケーブルのプラグを背面のLAN コネクタに差し込む②

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

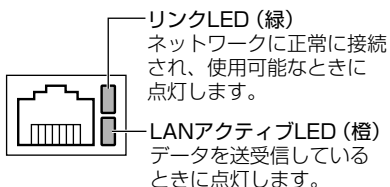
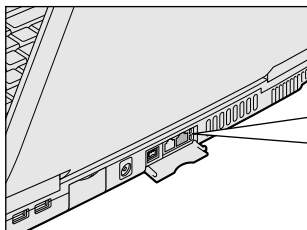


3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

LAN コネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。



Windowsのネットワーク設定


ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

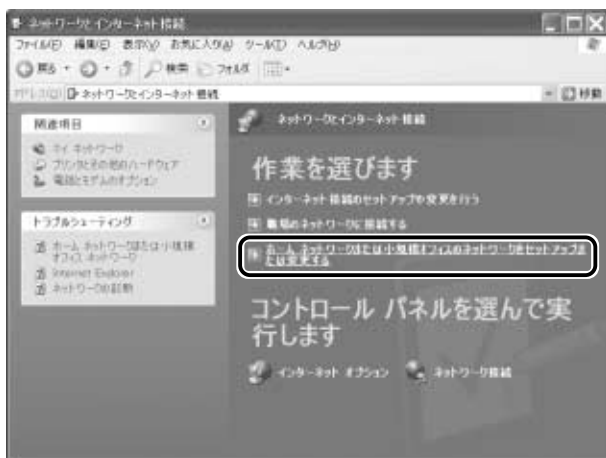
ご購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

■ ネットワークの設定

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



⚠ 注意

- ・ コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

増設メモリスロット 1 つにつき 256MB までの増設メモリを取り付けることができます。

本製品には 2 つの増設メモリスロット（スロット 0 とスロット 1）があり、スロット 0 はすでにメモリが取り付けられています。

別売りの増設メモリをスロット 1 に取り付けたり、スロット 0 のメモリを付け替えることができます。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずにお買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・LAN のウェイクアップ機能を使用しているとき
 - ・モード切替ボタンでマルチドライブの電源を ON にしているとき
 - ・電源を切った直後
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

■ 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

■ エラーメッセージについて

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、モードパネルにメッセージが表示されます。また、パソコンは起動しません。

【スロット0のエラーメッセージ】

モードパネルに次のように表示されます。

MEM0	Error
------	-------


【スロット1のエラーメッセージ】

モードパネルに次のように表示されます。

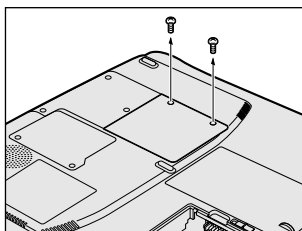
MEM1	Error
------	-------

取り付け

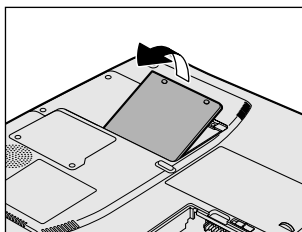
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 バッテリーパックについて ⇨ 「1 章 1-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモ리카バーのネジ 2 本をはずす

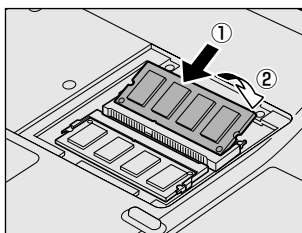


- 5 増設メモ리카バーをはずす

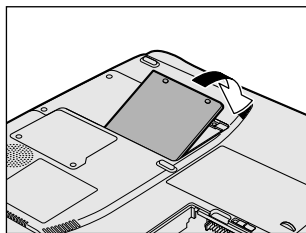


- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

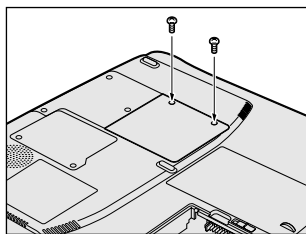
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。




- 7** 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。




- 8** 手順4ではずしたネジ2本でとめる



- 9** バッテリーパックを取り付ける


 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

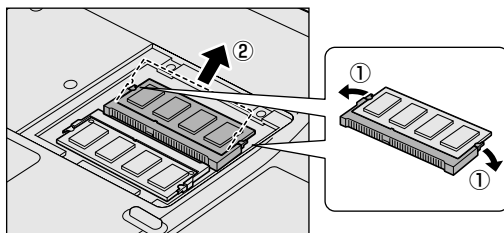
 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 メモリ容量の確認」

取りはずし


- 1** データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2** パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3** パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」


- 4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順4ではずしたネジ2本でとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 メモリ容量の確認」

メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

■ 確認方法

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ③ 左画面の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ④ [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ⑤ [メモリ] の数値を確認する

4章 システム環境の変更

- 1 システム環境の変更とは 122
- 2 東芝HW セットアップを使う 123

1

システム環境の変更とは

次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝コントロール」などがあります。

「東芝省電力ユーティリティ」については、「1 章 2 省電力の設定をする」をご覧ください。

「東芝コントロール」については、『基本をマスター 7 章 3-4 東芝コントロールで設定する』をご覧ください。



本章では、「東芝 HW セットアップ」について説明をします。

2

東芝HWセットアップを使う

東芝HWセットアップでハードウェアの設定を変更できます。
パスワード、プリンタポートモードなどのさまざまな項目について設定ができます。
複数のユーザで使用する場合、設定内容は全ユーザ共通です。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする

使用方法

■ [全般] タブ

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

【標準設定】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目がご購入時の設定状態に戻ります。



■ 【パスワード】 タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】


- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。 	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

■ 【OSの起動】 タブ

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

■ 【LAN】 タブ

LAN機能について設定します。





【LANのウェイクアップ】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

- 使用する
- 使用しない

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

付録

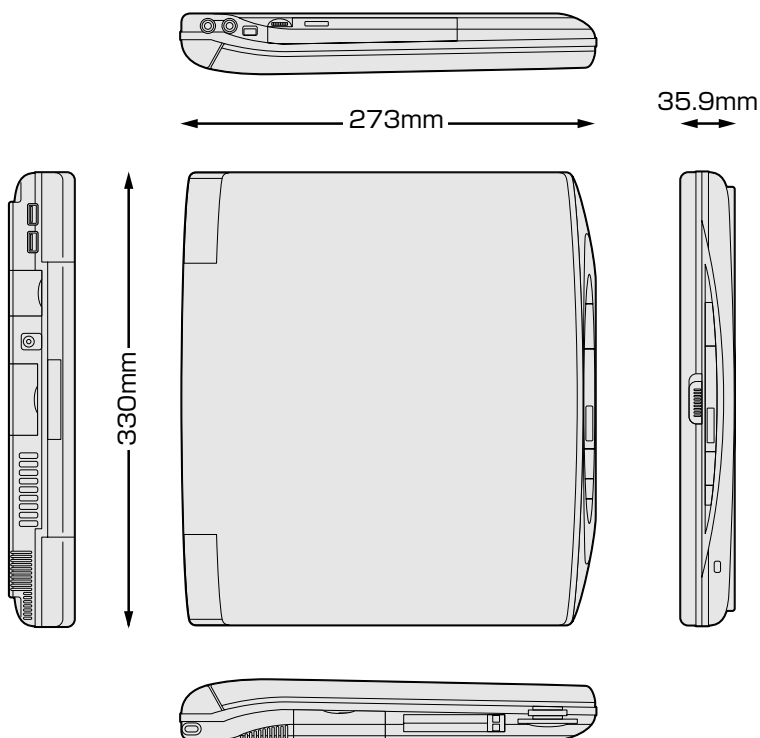
1	本製品の仕様	130
2	各インターフェースの仕様.....	136
3	技術基準適合について	140

1

本製品の仕様

外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。




サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

-  ● 本製品のディスプレイは 640 x 480 ドットのモードを選択しても、1024 x 768 ドットのタイミングで動作しています。そのため、VGA 専用の CRT ディスプレイとの同時表示はできません。同時表示をする場合は、SVGA の CRT ディスプレイを使用してください。

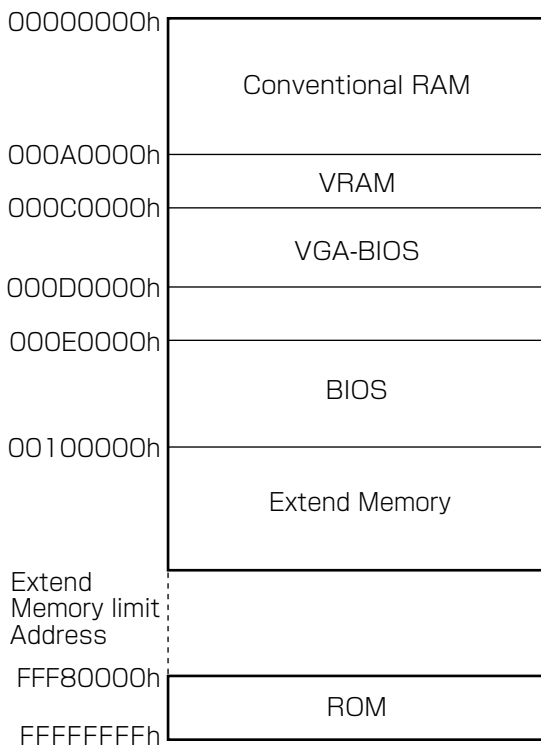
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2.3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*.1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*.3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4.5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	70
6		640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	70
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	60
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/ 85/100
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	256/256K	
—		1920 x 1440ドット*1	—	256/256K	60/75
—		2048 x 1536ドット*1	—	256/256K	60
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/ 85/100
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	64K/64K	
—		1920 x 1440ドット*1	—	64K/64K	60/75
—		2048 x 1536ドット*1	—	64K/64K	60
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/ 85/100
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M	
—		1280 x 1024ドット*1	—	16M/16M	
—		1600 x 1200ドット*1	—	16M/16M	
—		1920 x 1440ドット*1	—	16M/16M	60/75
—	2048 x 1536ドット*1	—	16M/16M	60	

* 1：内部液晶ディスプレイの場合は、実際の画面（1024×768）内に、仮想スクリーン表示します。

メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



I/Oポートマップ

本製品を、標準（出荷時）のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスクレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	(NDP)
0FFh	
130h	
170h	赤外線
178h	マルチドライブ
1F0h	
1F8h	HDC
376h	
377h	マルチドライブ
3B0h	
3BCh	VGA
3C0h	
3E0h	VGA
3F6h	
3F7h	HDC
3F8h	
400h	赤外線
CF80h	
CF9Fh	USB
DF40h	
DF7Fh	LAN
F500h	
F600h	サウンド
F6FFh	モデム
F800h	
FB00h	PCカード
FB3Fh	サウンド
FC00h	
FCFFh	PCカード
FF00h	
FF7Fh	モデム
FFE0h	
FFFFh	USB

DMA 使用リソース

出荷時の標準設定値です。

DMA		PIT
3	赤外線	1
4	Cascade for CTLR1	2

IRQ 使用リソース

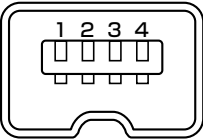
出荷時の標準設定値です。

IRQ		PIT
0	システムタイマ	#1
1	キーボード	
2	IRQ8~15	
3	赤外線	
4		
5	表示コントローラ	
6		
7	USBコントローラ、LAN、USB FDD、 PCカードコントローラ、SDカードコントローラ	#2
8	リアルタイムクロック (RTC)	
9	ACPI	
10	IEEE1394、スマートメディアコントローラ、モデム、 PCカードコントローラ、サウンド	
11	USBコントローラ	
12		
13	NDP (数値データプロセッサ)	
14	プライマリIDE (HDD)	
15	セカンダリIDE (マルチドライブ)	

2

各インタフェースの仕様

i.LINK (IEEE1394) インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

RGB インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	○
2	CGV	緑色ビデオ信号	○
3	CBV	青色ビデオ信号	○
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	ID0	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	○
14	-CVSYNC	垂直同期信号	○
15	SCL	SCLデータクロック信号	

コネクタ図



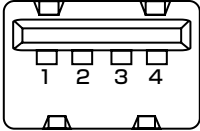
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名： -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

USB インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

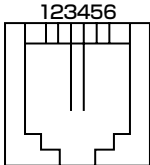
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図



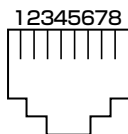
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

LAN インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (1)：パソコン本体への入力

信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

3

技術基準適合について

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

FCC information

Product name : DynaBook G3 series

Model number : PS500

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, IEEE1394 port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS500* conforms to the following Standards:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年10月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



詳細について ⇨ 《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries /regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
 - b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA720 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用
しています。

本装置の定格銘板に
は、右記の表示がされ
ています。

本装置はヨーロッパ共
通のレーザ規格

EN60825 で“クラ
ス1レーザー機器”に
分類されています。

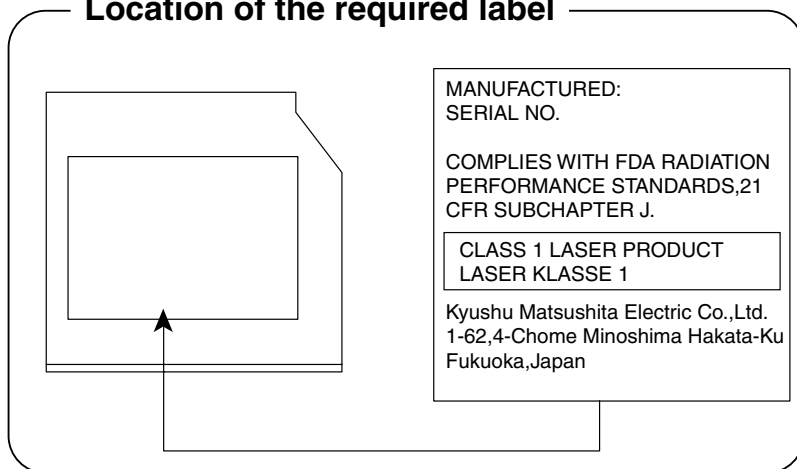
レーザー光を直接被爆
することを防ぐため
に、この装置の筐体を
開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



東芝 CD-RW / DVD-ROM ドライブ SD-R2102 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー

規格 EN60825 で “クラス1レーザー機器” に分類されています。

レーザー光を直接被曝することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス1レーザー製品

DANGER
VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT
SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

注 意
ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が
出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

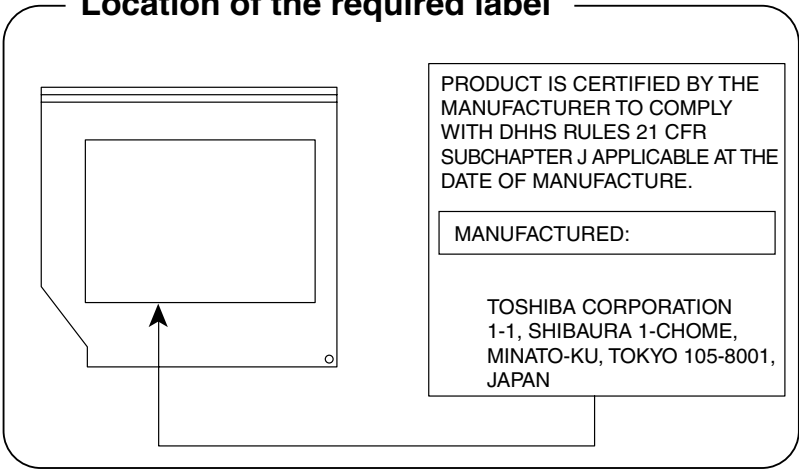
ADVARSEL
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING

ADVARSEL
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

VARO!
NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO
SÄTEESEEN.


VARNING
SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

Location of the required label



さくいん

(記号)

.NET Passport	66
.NET Passport を追加する	66
 キーを使った ショートカットキー	38

(A)

Arrow Mode LED	35
----------------------	----

(C)

Caps Lock LED	34
CRT ディスプレイの接続	102

(D)

DVD 再生	21
--------------	----

(F)

Fn キーを使った特殊機能キー	36
----------------------	----

(I)

i.LINK 対応機器の取り付け	97
i.LINK 対応機器の取りはずし	98
i.LINK によるネットワーク接続	98
IEEE1394 対応機器の取り付け	97
IEEE1394 対応機器の取りはずし	98

(L)

LAN ケーブルの接続	111
-------------------	-----

LAN コネクタに関するインジケータ	112
[LAN] タブ	126
LINE IN 端子への接続	110
LINE OUT 端子への接続	109

(N)

Numeric Mode LED	35
------------------------	----

(O)

[OS の起動] タブ	126
-------------------	-----

(P)

PC カード	85
PC カードの取り付け	86
PC カードの取りはずし	87

(U)

USB 対応機器の取り付け	89
USB 対応機器の取りはずし	90

(W)

Windows のネットワーク設定	113
Windows のユーザ設定	55
Windows ログオンパスワードの 削除	59
Windows ログオンパスワードの 設定	55
Windows ログオンパスワードの 入力	60
Windows ログオンパスワードの 変更	57

(ア)

新しいハードウェアの 抽出ウィザード	75
アロー状態	35

(イ)

インスタントセキュリティ機能	36
インタフェース	73

(ウ)

ウィンドウの色を変える	45
-------------------	----

(オ)

大文字ロック状態	34
----------------	----

(カ)

海外でインターネットに接続する	52
回線切換器	51
解像度を変更する	44
壁紙を変える	42

(キ)

キーシフトインジケータ	34
休止状態	23, 29

(ク)

コンピュータの管理者アカウント	65
--------------------------	----

(シ)

システム環境の変更	122
周辺機器	72
省電力モードの詳細設定	23

(ス)

スーパーロングライフ	21
数字ロック状態	35
スクリーンセーバパスワード	61
スクリーンセーバを使う	43
スタンバイ	27

(セ)

制限付きアカウント	65
[全般] タブ	123

(ソ)

増設メモリの取り付け	117
増設メモリの取りはずし	118

(テ)

デスクトップのテーマを変える ...	41
テレビに表示する	92

(ト)

東芝 HW セットアップ	123
東芝 HW セットアップのヘルプ	127
東芝省電力ユーティリティ	20
東芝省電力ユーティリティのヘルプ	26

特殊機能キー	38
時計用バッテリー	14
ドライバをインストールする	75

(ナ)

内蔵モデム用地域選択 ユーティリティ	52
-----------------------------	----

(ネ)

ネットワーク設定	113
----------------	-----

(ノ)

ノーマル	21
------------	----

(ハ)

ハードウェアの追加ウィザード ...	75
ハイパワー	21
[パスワード] タブ	124
バッテリー駆動	8
バッテリー駆動での使用時間	16
バッテリー充電量が減少したとき ...	13
バッテリーの充電時間	16
バッテリーの充電方法	15
バッテリーパックの取り付け ／取りはずし	18
バッテリーを節約する	17
パネルスイッチ機能	32

(ヒ)

光デジタル対応機器の取り付け ...	99
光デジタル対応機器の取りはずし	100
ビデオケーブルの取り付け	91

ビデオケーブルの取りはずし	95
ビデオモード	131
表示可能色数	39
表示装置を切り替える	103

(フ)

複数のユーザで使用する	67
プラグアンドプレイ	75
フルパワー	21
プレゼンテーション	21
フロッピーディスク	79
フロッピーディスクドライブ	77
フロッピーディスクの内容を見る	79
フロッピーディスクのフォーマット	81
分岐アダプタ	51

(ヘ)

ヘッドホンの接続	109
----------------	-----

(ホ)

ポインタの形を変える	46
ポインタの軌跡を表示する	50
ポインタの速度を変える	49
ホットインサクション	76

(マ)

マイクロホンの接続	108
-----------------	-----

(メ)

メモリ容量の確認	120
----------------	-----

(コ)

ユーザーアカウントの画像を 変更する	64
ユーザーアカウントの種類を 変更する	65
ユーザーアカウントの追加	67
ユーザーアカウントの名前を 変更する	63
ユーザーアカウントを 切り替える	68

(ク)

ライトプロテクトタブ	80
------------------	----

(ク)

ロングライフ	21
--------------	----